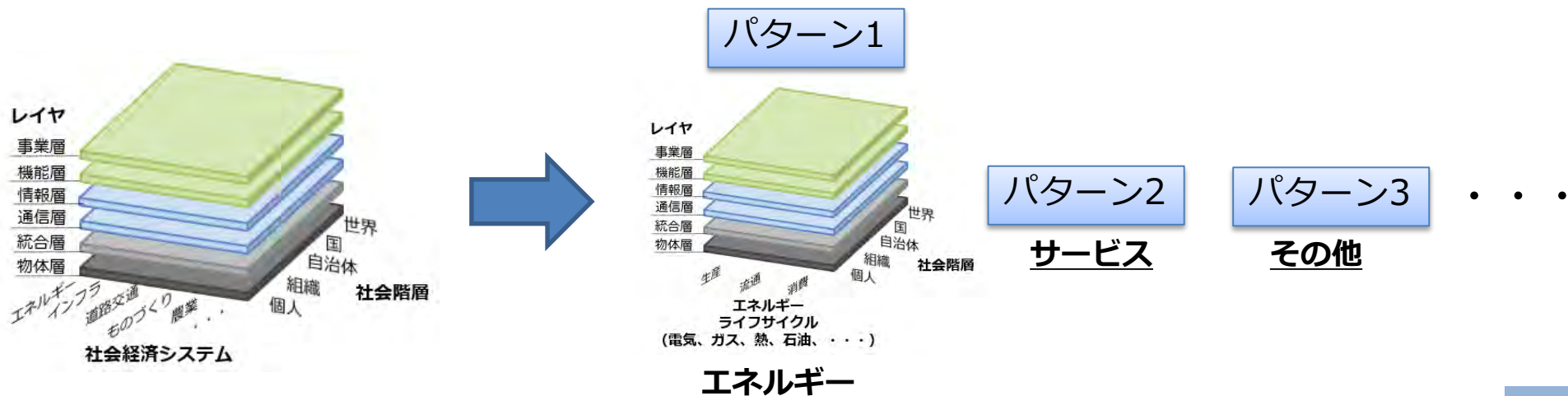


# 参考

11のシステムを少数のパターンにまとめることができれば、2~3のリファレンスモデルで Society 5.0を表現できる可能性あり。

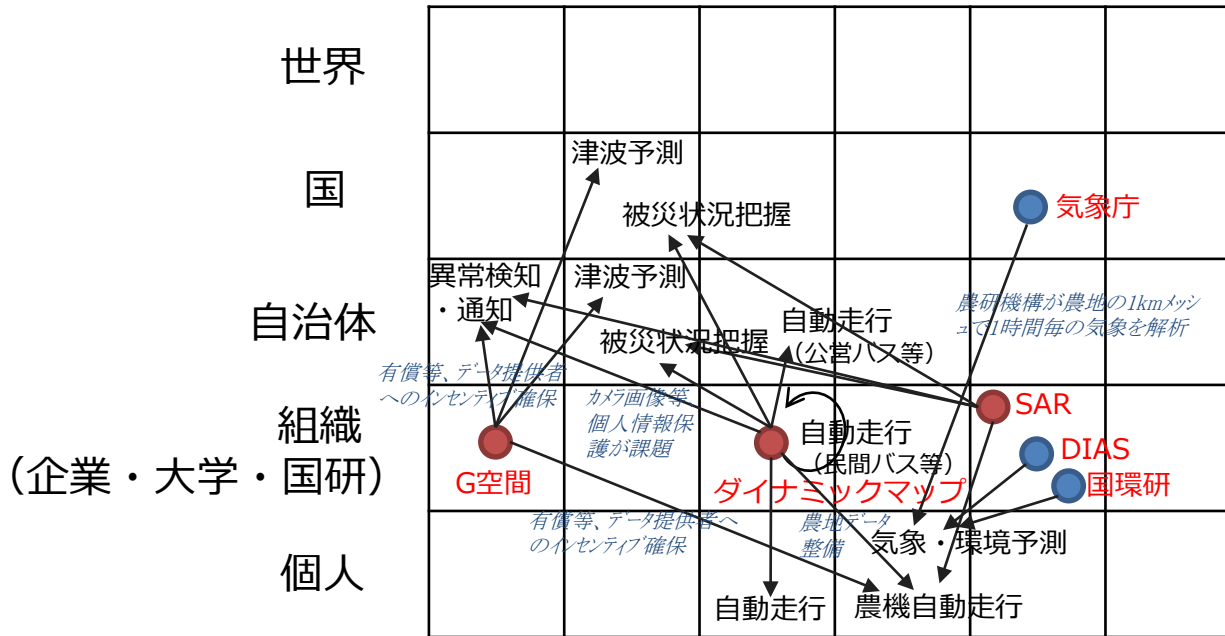
- データベースを共有するシステム群が、ドメインが異なっても、ライフサイクルやバリューチェーンが同じである場合
    - ➔ 社会経済システム軸をRAMI 4.0と似た形（Life Cycle & Value Stream軸）に変更したほうがよい〔リファレンスモデルパターン1〕
- （例えば、エネルギーは生産、流通、消費が基本形であるため、電気、ガス、熱等のシステム群が連携する際は、Life Cycle & Value Stream軸で表現可能（石油、石炭、水も同様）
- 一方、自動走行や防災・減災などサービスを主として提供するシステム群の場合
    - ➔ サービスを軸とする別の軸を考える必要あり〔リファレンスモデルパターン2〕



# データベース有効活用の確認について

- 地理系 (●)、環境系 (●)、矢印 (→) は、サービス提供に必要なデータの流れ、データベース活用によるサービス例 (矢印終点) を図示。

## データベース構築主体



インフラ

防災・減災

道路交通

農業

地球環境情報

・  
・  
・

**11システム**

# 11システムの分類とX軸候補について（案）

- 分類1：生産、流通、消費パターン

- エネルギーバリューチェーン
- スマート・フードチェーン



X軸候補として、生産、流通、消費としてはどうか。

- 分類2：生産、流通、販売（契約）パターン

- ものづくり
- 統合型材料開発



X軸候補として、RAMI4.0を踏襲してはどうか。

- 分類3：インフラ（ネットワーク）構築、サービス提供、保守（見守り）パターン

- 高度道路交通
- スマート生産
- インフラ維持管理
- 防災・減災
- 地球環境情報PF
- 地域包括ケア
- おもてなし

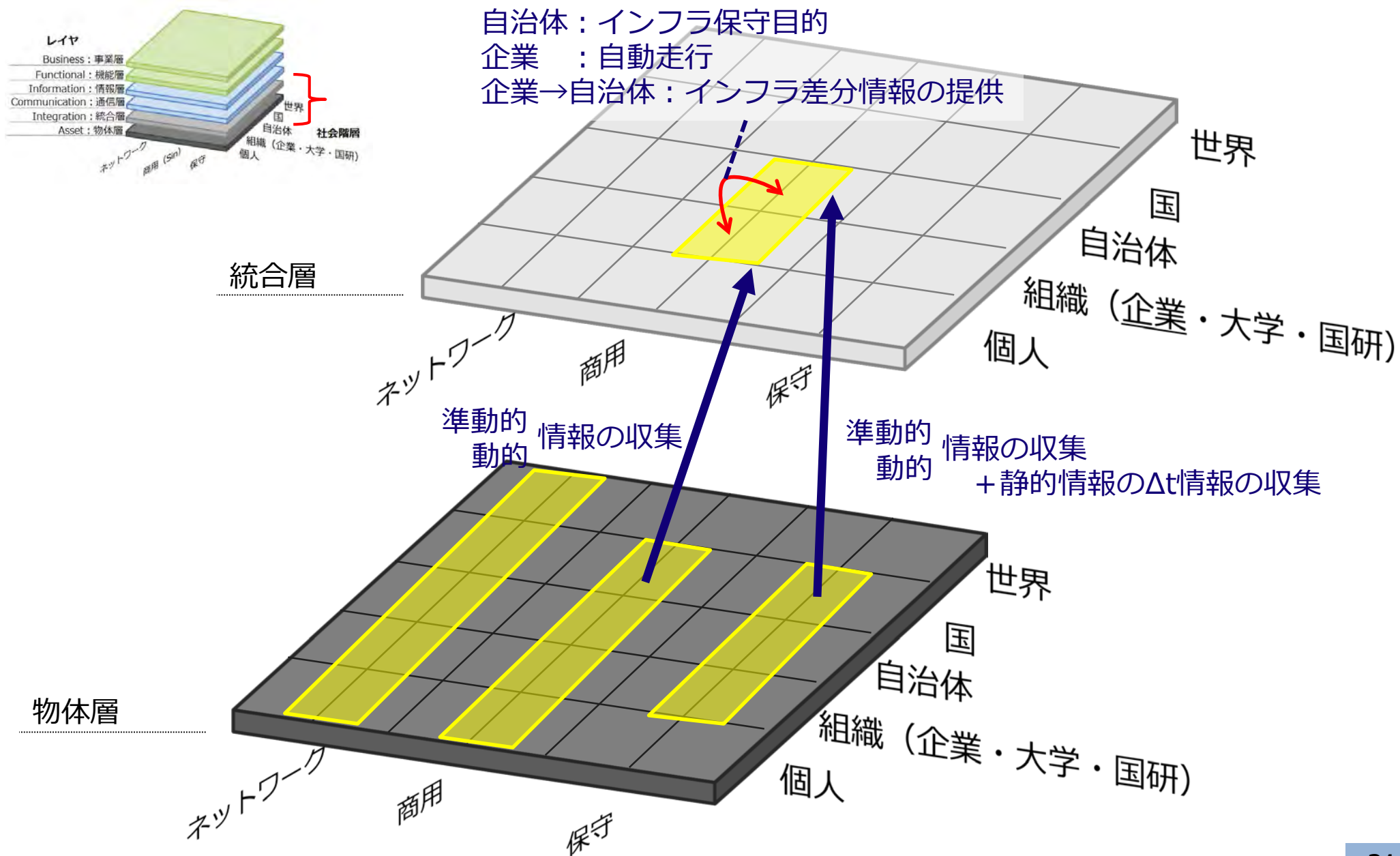


X軸候補として、インフラ（ネットワーク）構築、サービス提供、保守（見守り）としてはどうか。

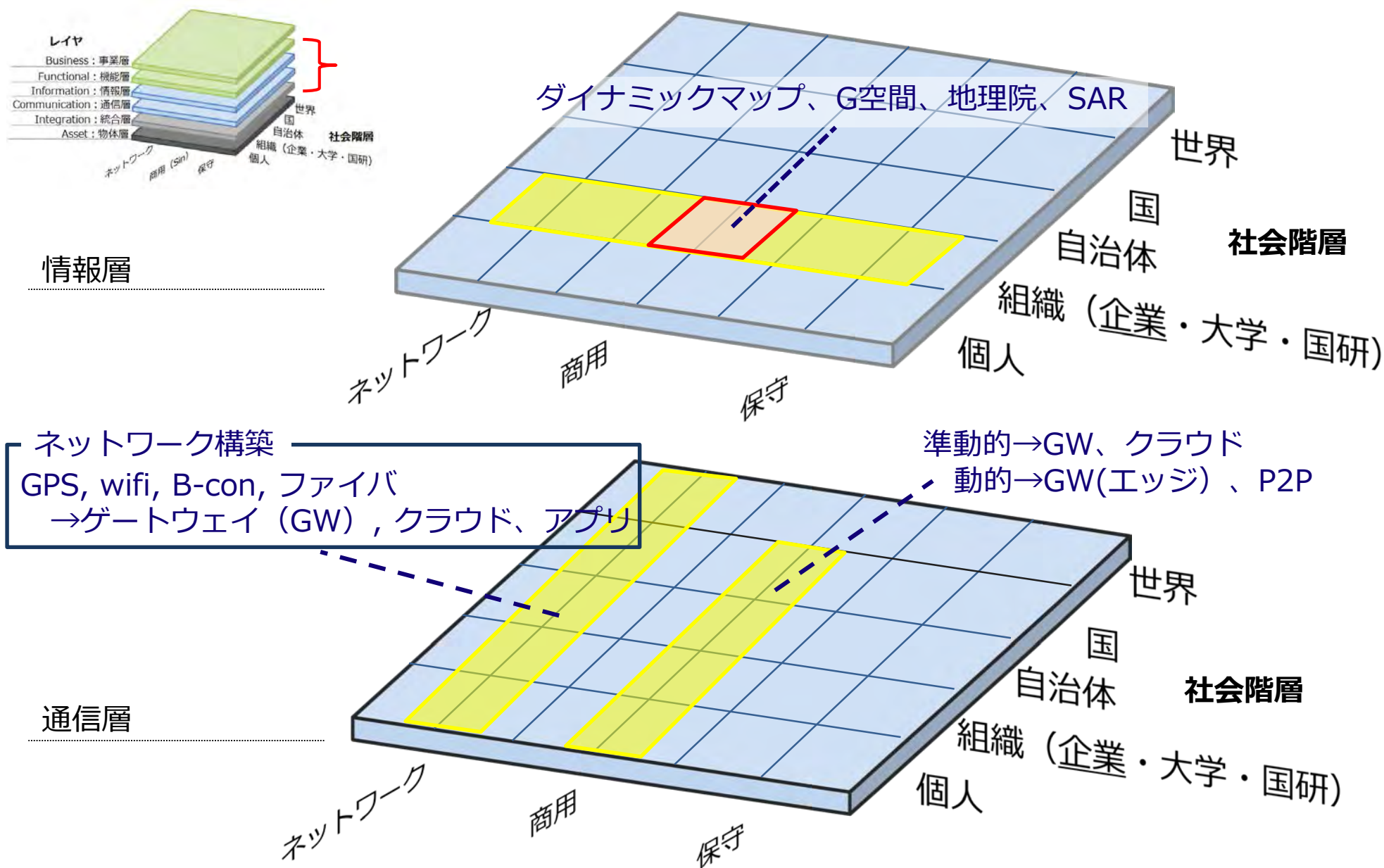
# 地理系DBの官民活用事例



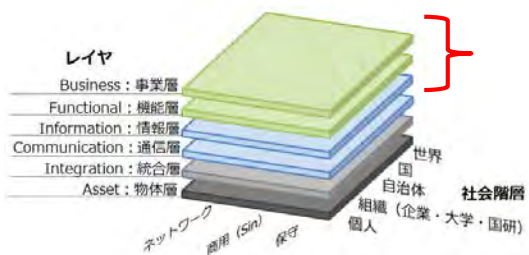
# 地理系DBの官民活用事例のリファレンスモデル検討 (1)



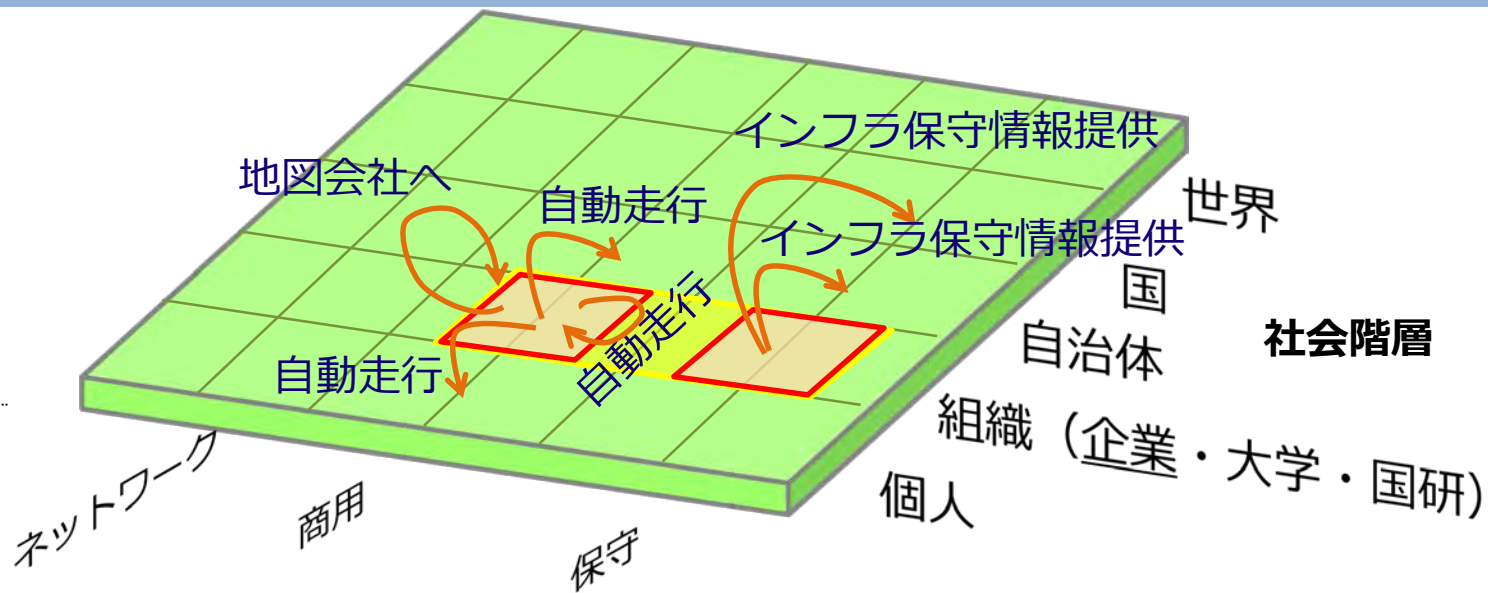
# 地理系DBの官民活用事例のリファレンスモデル検討 (2)



# 地理系DBの官民活用事例のリファレンスモデル検討 (3)

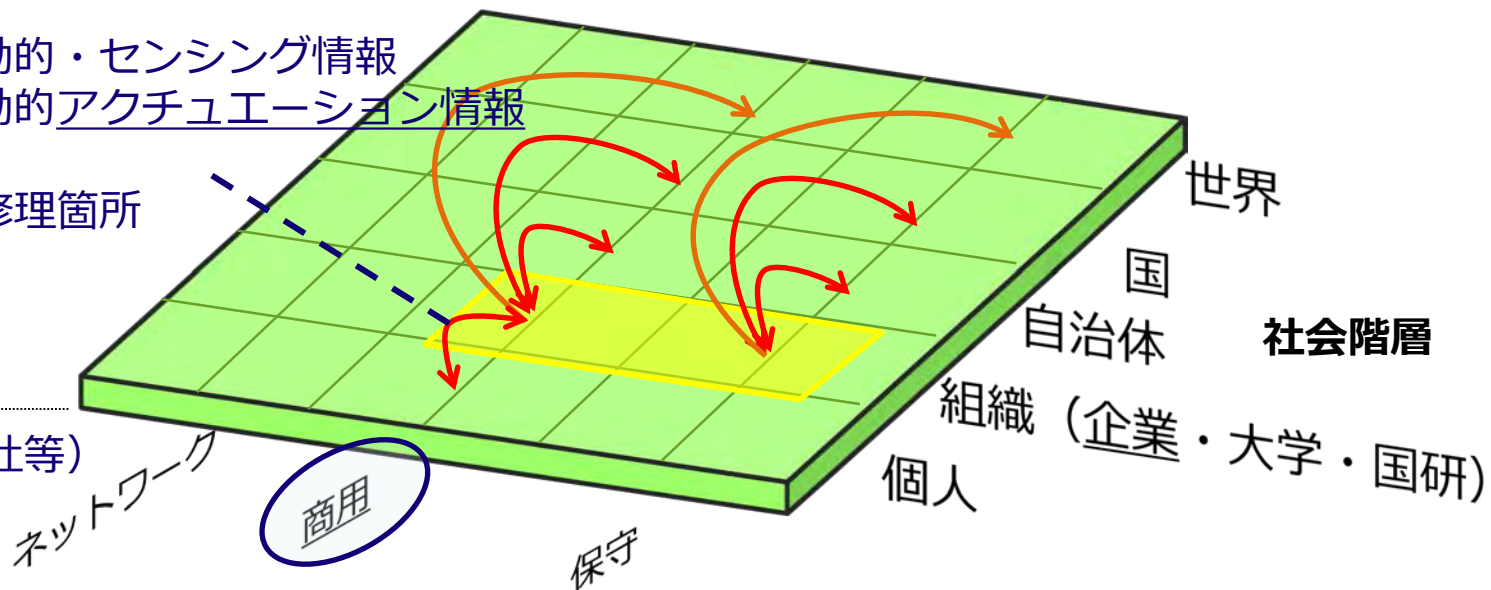


事業層



個人⇒組織：準動的・動的・センシング情報  
 組織⇒個人：準動的・動的アクチュエーション情報  
 組織⇒自治体の場合は、  
 インフラ修理箇所

機能層



個人 ⇔ 組織 (DM会社等)  
 自治体 ⇔ 組織  
 国 ⇔ 組織  
 世界 ⇔ 組織